

令和6年度第1回福岡市スポーツ推進審議会 議事録

＜開催日時＞ 令和7年3月18日（火） 10：00～ 11：00

＜開催場所＞ アクロス福岡6階 608会議室

＜出席委員＞ 12名（欠席2名）

原田 清子 委員、齋藤 光子 委員、橋本 太貴子 委員、
工藤 麻子 委員、西村 秀樹 委員、兄井 彰 委員、藤井 雅人 委員、
早瀬 仁美 委員（会長）、松尾 規文 委員、出利葉 正信 委員、
高巢 健一 委員、阿武 正俊 委員

＜説明のため出席した事務局職員＞ 6名

藤本スポーツ推進部長、
平山スポーツ推進課長、中村スポーツ施設課長、
後藤スポーツ事業課長
ほか2名

＜議題及び報告事項＞

○ 議題

- （1）令和7年度当初予算案におけるスポーツ振興関連団体への補助金（案）について

○ 報告

- （1）福岡市スポーツ推進計画の取組みについて
- （2）令和7年度スポーツ振興にかかる主な事業について

＜協議要旨＞

○ 開会

（事務局）

- ・本日の出席委員数は、全14名のうち、12名で、委員の過半数を超えているため、福岡市スポーツ推進審議会条例第7条の規定に基づき、本日の会議が成立することを報告する。

○ 議題

- （1）令和7年度当初予算案におけるスポーツ振興関連団体への補助金（案）について

(会 長)

- ・事務局から説明をお願いします。

(事務局)

- ・資料 1 に沿って説明。

(会 長)

- ・説明について、ご意見、ご質問等がある委員は挙手のうえ、発言をお願いします。

(各委員)

- ・意見等なし。

(会 長)

- ・了承いただいたということで、議題については以上とする。

○ 報告

(1) 福岡市スポーツ推進計画の取組みについて

(2) 令和 7 年度スポーツ振興にかかる主な事業について

(会 長)

- ・事務局から説明をお願いします。

(事務局)

- ・資料 2、3 に沿って説明。

(会 長)

- ・説明について、ご意見、ご質問等がある委員は挙手のうえ、発言をお願いします。

(委 員)

- ・資料 2 のボートレースパーク化事業について、どのような理由・目的から公園等の中に整備するのではなく、ボートレース場にスケートボード場を整備することとしているのか。

(事務局)

- ・コロナを契機として、オンライン等での舟券購入が増え、現地の舟券売り場や駐車場等に余剰が生じ、有効活用を図る余地が生まれたことから、地域貢献やボートレース場の活性化といった観点で、全国的にパーク化事業が進んでいる。

その中で、比較的多く取り組まれているのが、子どもの遊び場や、東京オリンピック・パラリンピックを契機として人気の高まったアーバンスポーツをする場の整備である。

本市においても、スケートボードの人気の高まる一方で、する場が少なく、街中での危険な走行が課題となっていたところにこういった話があり、ボートレース福岡を所管する経済観光文化局との連携のもと、実施することとなった。現在、東区の雁ノ巣レクリエーションセンターにスケートボード場があるが、本件のように、都心部でもスケートボードをすることができる場所を作ることには意義のあるものと考えている。

(委員)

- ・スケートボードのようなストリート系のスポーツは街中でされることがあり、それはこうしたスポーツの文化的な特徴でもあるが、危険な走行、施設設備の破損などが問題になることがある。実施場所をボートレースパークのような場所に集約することで、そうした問題の解決につながるのかということが気になって質問した。

(事務局)

- ・委員ご指摘のとおり、場を作るだけで問題を解決するのは難しいと考えている。場所ができたから、全ての人が利用するということはないと考えており、ソフト的な取り組みも必要である。パークの運営を通して、競技団体の皆様と連携し、マナーアップへの取り組みや啓発も実施していきたい。

(会長)

- ・場づくりの中でこういった新たな試みがあることは大変よいことであると考えている。先ほど事務局から説明のあった「する・みる・ささえる」の3つの観点から、市民局だけでなく、他局とも連携して取り組みがなされており、今後とも継続してほしい。

(委員)

- ・資料3記載の福岡マラソン2025の開催費用が1億3,477万円とのことだが、主にどういったところに費用がかかっているのか。

(事務局)

- ・資料3掲載の金額は福岡市が負担している金額で、大会開催の全体経費は2023年開催の実績で約4億5,000万円かかっている。一番多くかかっているのは大会の運営経費であり、ランナーの受付や、コースの設営、糸島から筑前前原駅などへの送迎バスに係る経費等として約2億5,000万円かかっている。

そのほか、沿道の安全対策として、民間の警備会社にも 1,300 人規模でご協力いただくなど、約 1 億 4,000 万円かかっているもの。

(会 長)

- ・以上で、議題 1 件と報告事項 2 件がすべて終了した。最後に、全体を通して、あるいは、本日の議事にかかわらず、委員の皆様のそれぞれの御立場から、最近のスポーツの動向に関するご意見、ご質問等があれば発言をお願いする。

(委 員)

- ・コロナ禍を経て、子どもたちの体力が下がっている現状にある。小学校においては、子どもの遊び場として運動場を開放しているが、スポーツを楽しむ子どもとそうでない子どもの二極化がすすんでいる。
まず、体を動かすことの楽しさを知るきっかけとなる地域の公園での遊びが制限されているというのが課題。子どもたちがルールやマナーを守った上で、遊ぶことのできる環境づくりができないものかと考えている。

(委 員)

- ・中学校においては部活動がスポーツを推進する場となっているが、国が部活動の地域移行の方針を掲げている。一方で、その具体的な方法については各自治体に任されているという状況がある。
小さな自治体であれば、複数の中学校で部活動をまとめるといった事例があるが、福岡市においては生徒数が多く、様々な部活がある中でその受け皿をどうするかという課題があり、地域移行としてはなかなか進んでいない状況にある。その中で、福岡市では、地域人材に学校現場へ入っていただき、部活動を充実させていこうという考えのもと、部活動指導員として 300 人程度任用する予算をとっている。
また、国の方向性に則り、クラブチームについても、一定の条件のもと、中体連の大会に出場しているという状況であるが、クラブという環境で練習しているチームと、学校によっては初心者の先生が一生懸命指導している部活動では、明らかに差が出てくる。そういった中でいかに不公平感を感じさせないように大会を運営していくか、運営面でどのようにクラブチームに協力していただくかといったような課題がある。中学校で一生懸命部活に励んでいる子どもたちがいる中で、その子どもたちにも活躍の機会を与えられる場を作っていきたいと考えている。

(会 長)

- ・小中学校においては、通常業務だけでも大変な中、部活動もあつていろいろな課題があるものと思う。事務局から何か意見はあるか。

(事務局)

- ・福岡市においてもスポーツ推進計画を策定し、目標に応じた様々な指標を設定している。中でも、「スポーツを「する」活動を週1回以上行っている市民の割合」や「スポーツをする場や機会が身近にあると感じる市民の割合」は増加傾向にある。

一方で、小学5年生と中学2年生を対象とした「卒業後も運動やスポーツをしたいと思う児童・生徒の割合」は横ばいの状態であり、そうしたスポーツを実施する意欲については、全国に比べてやや低い傾向にある。

そういった中で、スポーツをするきっかけづくりの観点から、いろいろなスポーツを体験できる機会や、夏休みにプールを開放するといった取組みを実施しているところであるが、問題の解決にはまだ課題がある。スポーツ実施に対する意欲を高める工夫や事例があればご教示いただきたい。

(会 長)

- ・各団体においても様々な取組みをされているところと思われるが、何か事例があればご紹介いただきたい。

(委 員)

- ・昨年、北九州市で開催されたバレーボールのネーションズリーグが盛り上がり、マスコミにも取り上げられたことをきっかけに、バレーを始める子どもが増えたと聞いている。スポーツを観戦することにより、子どもたちに感動を与えられたということは大きな影響があったのではないかと考えている。

ああいう風になりたいと子どもたちがあこがれるというのもあり、こういったものを見せることによって子どもたちに興味を持ってもらうことは大事であると考えている。

(委 員)

- ・年に1度、福岡市民体育館でスポーツフェスタを実施しており、体育館を4分割し、バレーボール、卓球、バドミントンや簡単にできるニュースポーツを実施し、市民の皆様へ広く参加の呼びかけを行っている。無関心層がスポーツを始めるきっかけになってほしいという思いから、普段スポーツをしない人たちにもチラシを配布し、呼びかけている。

最近では、子どもたちの参加も増えており、家族で参加する方もいる。以前、このイベントで卓球を経験された方が小学校の卓球クラブに入ったといったような話を聞くこともあり、子どもたちが気軽に、1日だけでも何か体験できるような、ハードルの低く、参加しやすいイベントをいくつか開催できるとよいのではないかと考える。

また、部活動の地域移行に関しては、地域でそのスポーツを楽しんでいる大人が部活動の力になれるよう、今後指導者の育成に力を入れていきたいとも考えている。

(会 長)

- ・部活動と指導者をつなぐ場や手段はあるか。

(事務局)

- ・本市においては、委員からご紹介のあった部活動指導員の充実や、プロのアスリートの派遣、地域の経験者からボランティアでご協力いただくという事例がある。

競技経験のない先生が指導する事例もある中で、競技経験者や指導ができる方が参画しやすいような取組みも実施しているため、部活動指導員などとしての協力はありがたいものであると感じている。

(委 員)

- ・部活動の地域移行については、スポーツ推進委員に対しても、中学校と地域の交流のコーディネートを行うよう県から指示があったものの、福岡市は小規模な都市と異なり、ひとつのスポーツクラブが地域スポーツの受け皿となっているのではなく、地域によって異なる公民館サークルなどが複数活動している状況であるため、難しい印象である。

そのような中で城南区においては、国の補助のもと、福岡大学と連携して一部進めている現状があるが、補助金がないところについては受益者負担になり、月々の会費が払えない子どもが発生してくるのではないかと課題感がある。

また、コロナ禍で競技をやめていた人に、活動を再開しないか声かけをしても、競技を再開しない人がかなりの数に上り、一度なくなったものを取り戻すのは難しいと実感している。なおかつ地域の競技参加者も高齢化しており、スポーツを実施する人が減少しているように感じる。

資料2記載のスポーツ体験ランドのように、今までスポーツをしていなかった人たちが、ニュースポーツ等を通して楽しかった、またしたいと思えるような機会を増やすことは、スポーツをする子としない子の二極化という問題を解消する手立てになるのではないかと感じている。

(会 長)

- ・スポーツ指導者と学校をつなぐ取組みについて、うまくいっているところとそうでないところがあるとのことであったが、他に意見はないか。

(委 員)

- ・学校側から、地域の方にこういったものを教えてもらいたいと具体的な要望が出てこない限り、なかなか進まないのではないかと考えている。

また、1日だけの体験でも、スポーツをやってよかったといったような体験ができることが大切であるとする。

昨年度の世界水泳の際、水泳をやっている子どもたちが運営の手伝いをする機会があったが、小さい規模でもよいので、関連の大会などでそうした機会ができればよいのではと思っている。

(委 員)

- ・福岡大学では昨年度、城南区の中学校を対象にサッカー、剣道など一部のスポーツ種目の部活動について、週1回程度大学のスポーツ施設とスポーツ科学専攻学生を活用して合同練習するという形での、いわゆる集合型の部活動地域連携事業を実施した。

事業に参加した中学生へのアンケート調査の集計結果からは、自分の中学校の部活動の仲間と自分の中学校の施設でもっと練習して試合に勝ちたいと思う一方で、1週間に1回くらいは、他の中学校の仲間とともに、整った施設のもとで種目の専門指導が受けられる福岡大学で教わりたいとも思っており、子どもたちの心情が揺れているのを見て取ることができた。

アンケート調査によれば、顧問の先生についても、自身の専門種目ではない指導を福岡大学で実施してもらえて助かっているという意見が多かったものの、部活動指導を一生懸命やられている方ほど必ずしもそうは思っていないような印象も受けた。

最近の学術調査研究の大きなトピックでもあるが、先ほども言及された子どものスポーツ実施に対する格差が、地域移行を進めることにより大きくなるのではないかという懸念がある。これまでは、すべての生徒たちがほぼ平等に部活動に参加できていたところ、部活動の地域移行により、活動の担い手が学校という公的な領域から地域や企業、第3セクター等に移行され、子どもたちのスポーツの実施に格差が生じる可能性がある。

これまで既に家庭の経済状況によって、運動・スポーツ実施にとどまらず、子どもたちの様々な体験格差が生じていることについては科学的なエビデンスが出ており、部活動の地域移行により、経済的に豊かでない家庭がスポーツ活動に参加することが難しくなるのではないかという議論がある。結果として、経済的な格差がスポーツの体験格差を生じさせる可能性があり、それへの対応は今後政策的に重要な課題であるとする。

この点に関して、福岡大学では今、大学の外に設立した社団法人を中心に、スポンサーからの寄付等を募りながら、様々な組織とも協働し、地域と連携した中学校部活動の活性化を目指した取り組みを進めている。これまでと異なる新たな発

想で取組みを実施しないと、部活動の地域移行の試みは絵にかいた餅になってしまう可能性がある。

(委 員)

- ・教育委員会において、部活動の指導者バンクを作っている。どうしても専門の指導ができる先生がいない場合にそれを活用し、指導者の方から実技指導をしていただいております、専門の方にご指導いただけることを子どもたちも喜んでいる。

(会 長)

- ・教育委員会にそういった人材バンクがあると聞き安心した。他に意見等ないか。

(各委員)

- ・なし

(会 長)

- ・これをもって本日の審議会を終了する。

○ 会議終了